年　度	2024 年度
科目コード	K-K01

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
コミュニケーション活動Ⅰ	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

球技大会や遠足、各種展示会の見学、その他行事など、通常の教科の学習を越えた範囲のさまざまな学習活動を行う。 校外での集団行動も多く、チームワークなど教室の授業では得られない学習効果が期待できる。コミュニケーション能力を向上させ、より良い人間関係を構築できるようになる。

授　業　の　概　要

各種行事（入学式・始業式・終業式・遠足・球技大会や展示会見学など）が科目として消化される。欠席しないことが大事である。

成 績 評 価 の 方 法

各行事への意欲で評価する。	学習意欲　100%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

なし

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
入学式	4		
新入生オリエンテーション	10		
遠足	4		
展示会見学等	8		
防災訓練	2		
秋の遠足	8		
スポーツフェスティバル	8		
始業式・終業式など	16		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-K07

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
マナー講座Ⅰ	演習	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	1	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

社会の中で働くということは何か、ビジネスで信頼を得るには何が大切なのかを理解する。

授　業　の　概　要

仕事での立ち振る舞い、敬語、電話等の受け答え、文書の書き方等を授業で実践し、基本的なマナーを身につける。学んだことを就職活動で生かせるようにする。

成 績 評 価 の 方 法

授業内課題 50%、学習意欲 50%

課　　題　50%
学習意欲　50%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

社会人のための基本のビジネスマナー

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．社会人に必要な意識とイメージ管理	2		
２．会社での働き方と仕事の基本	2		
３．ビジネス会話・電話・メール・文書	2		
のマナー	2		
４．来客対応&訪問のマナー			
５．人づき合い・冠婚葬祭のマナー	2		
６．実践行動学	5		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-K10

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
基礎英語	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	60	4	紅林　江身子

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

基礎的な英語の構文を身に付けることを目標とする。

授　業　の　概　要

基本的な英語の知識を学び直すところから始める。英語でのコミュニケーション力の基盤となる語彙、文法について学習し、英文を正確に理解する力を身に付ける。

成 績 評 価 の 方 法

授業の区切り毎に実施する小テスト及び学期末に行う期末試験を基に評価する。また、授業中の参加意欲に応じて成績評価を行う。

小テスト	30%
期末試験	50%
学習意欲	20%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

Basic English Grammar for Global Communication　やさしく詳しい基礎からの総合英語

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
1.　オリエンテーション	2	12. 前置詞	4
2.　現在形	4	13. 修飾語	4
3.　過去形	4	14. 接続詞	4
4.　未来形	4	15. 関係詞	2
5.　進行形	4	16. 仮定法	2
6.　完了形	4	17. まとめ・期末試験	2
7.　助動詞	4		
8.　受動態	4		
9.　不定詞。動名詞	4		
10. 名詞・冠詞	4		
11. 比較	4		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-K11

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
ビジネス英語Ⅰ	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	島田　幸紀

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

指定テキストを通して、英語の土台となる英文法と英語リーディング技能を身に付ける。
基礎的な語彙や語法を確認しながら、基本的な会話を行う上で重要な要素となる文法の理解を基に、日本語らしい英文ではなく、英語らしい英文を読むことができる。

授　業　の　概　要

自分自身の英語力、特にリーディング・リスニングがどの程度なのかを把握し、自身の学習目標を立て、将来的な英語学習の手がかりを得ることを目標とする。初級英語の学習を目標とし、200 字程度から 250 字程度の英文でリーディングスキルを身に付ける。また、授業時に課題を課し、自身の理解度を把握する。

成 績 評 価 の 方 法

期末試験：50%、授業内課題：50%

期末試験	50%
課　　題	50%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

武藤克彦、Timothy Kiggle Reading Palette Red-Basic- 成美堂

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第１回　品詞	2	第１４回　話法	2
第２回　文の要素	2	第１５回　総合演習・まとめ	2
第３回　文型	2		
第４回　句	2		
第５回　節	2		
第６回　文の種類	2		
第７回　接続詞	2		
第８回　不定詞と動名詞	2		
第９回　形式主語・形式目的語	2		
第１０回　分詞	2		
第１１回　分詞構文	2		
第１２回　関係代名詞（1）	2		
第１３回　関係代名詞（2）	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K13

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
実用英語Ⅰ	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	島田　幸紀

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

Reading/Listening/Speaking/Writing の４つの技能を身に付けます。実際の BBC や CNN で流れるニュース、また英字新聞、雑誌を理解できる力を身に付けます。

授　業　の　概　要

英文を読むことから始め、文法を理解しながら Listening/Speaking/Writing の演習を行う。テキストの問題演習を通して理解度合を確認し、幅広いトピックに触れることで、多様な話題に関して英語で発信するエクササイズを繰り返す。また、日本のニュースを英字に翻訳して発信する Web サービスを活用し、身近な英語に触れる演習を行う。

成 績 評 価 の 方 法

授業時課題：50%　期末試験：50%

課　　題	50%
期末試験	50%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

Develop Four Skills Through English News（三修社）日本英語メディア学会

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数
第 1 章 Japan Post to start test deliveries using drones	2
第 2 章 Toyosu market reels in 40,000 visitors on first public day	2
第 3 章 Foreign cooks flocking to Japanese culinary schools amid boom in cuisine's global popularity	2
第 4 章 Solar-powered Flower Bed Automatically Waters Plants	2
第 5 章 Facial looks top priority for Japanese in cosmetic surgery	2
第 6 章 Oita Prefecture temple holding study meetings on Islam to spread understanding	2
第 7 章 Tiny organism that eats plastic spawns race to tap its secrets	2
第 8 章 Health care system could collapse if elderly people's contributions not doubled:insurance official	2
第 9 章 Glue sold over counter cheapest way to cultivate stem cells	2
第 10 章 Planet-Warming Gases Make Some Food Less Nutritious, Study Says	2
第 11 章 Therapy dogs giving comfort at dementia café in Tochigi	2
第 12 章 More home appliances for pets hitting store shelves	2
第 13 章 DISCOVER ANIME / Reverse phenomenon of 'Radiant'	2
第 14 章 JET Programme Voices / Multicultual symbiosis	2
第 15 章 総合演習・まとめ	2

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K18

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
コンピュータ演習Ⅰ	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	60	4	島田　幸紀

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

Windows の基礎知識、Microsoft Office Word 2019 の基本操作を習得する。Word の操作及び演習を通してアプリケーションの理解を深める。高度なビジネス文書作成ができるようになる。また、データサイエンスやＡＩに関するリテラシーレベルの知識を習得し、使用方法についても習得する。

授　業　の　概　要

Word では、基本操作から高度な操作まで様々な機能を習得し、最終的に簡単な表や図などが含まれたビジネス文書を作成することが出来るようになる。また、数理・データサイエンス・ＡＩに関する内容についても学修する。

成 績 評 価 の 方 法

課題の提出状況及びその内容 50%、教室で確認できる習熟度 20%、平常点 30%（授業に臨む態度・姿勢）を総合して評価する。

課　題	50%
習 熟 度	20%
学習意欲	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

例題 50＋演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト
Windows10/Office2019 対応版 定平誠 著　㈱技術評論社
AI データサイエンスリテラシー入門 吉岡剛志，森倉悠介，小林領，照屋健作　著

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

Word 編	時間数	Windows の基礎、数理・DS・AI 編	時間数
１）導入・基本操作	2	１）Windows の基礎	2
２）文章の入力と保存	2	２）インターネットの理解	2
３）課題作成（１）	2	３）個人情報とセキュリティ	2
４）レイアウト設定とデザイン	2	４）フォルダとファイルの管理	2
５）課題作成（２）	2	５）OneDrive の活用	2
６）SmartArt デザイン	2	６）ネットマナーとルール	2
７）課題作成（３）	2	７）コンピュータウィルス	2
８）ポスターデザイン	2	８）著作権とコンピュータ犯罪	2
９）課題作成（４）	2	９　１０）大量のデータを扱う方法	4
１０）段組み・縦書き・表作成	2	１１）データの加工・解析	2
１１）課題作成（５）　１２）名刺作成	4	１２）データの分析	2
１３　１４）実践課題	4	１３　１４　１５）データサイエンス実習	6
１５）全体のまとめ	2		

その他	関連科目
	コンピュータ演習Ⅱ

年　度	2024 年度
科目コード	K-K19

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
コンピュータ演習Ⅱ	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	60	4	島田　幸紀

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

アプリケーションプログラムとして、Microsoft Office 2019 の Excel と PowerPoint の基礎を習得する。演習を通して、それぞれのアプリケーションの理解を深める。関数を使った表作成、視覚的なプレゼンテーション資料を作成ができるようになる。

授　業　の　概　要

Excel では、基礎的な関数、少し高度な関数（IF・VLOOKUP）の習得、グラフ、データベース機能について学習し、IT パスポート試験の表計算分野の問題が解ける力を身に付ける。
PowerPoint では、就職活動や新人研修等で自分のイメージに合うセルフプレゼンテーションができるようになる。

成 績 評 価 の 方 法

課題の提出状況及びその内容 50%、教室で確認できる習熟度 20%、平常点 30%（授業に臨む態度・姿勢）を総合して評価する。

課　題	50%
習 熟 度	20%
学習意欲	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

「例題 50＋演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10/Office2019 対応版」定平誠　著、株式会社技術評論社

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

Excel 編	時間数	PowerPoint 編	時間数
1）イントロダクション	2	1）イントロダクション	2
2）表計算シート作成	2	2）スライド作成	2
3）関数(1)　4）関数(2)	4	3）スライドをデザイン	2
5）課題作成（1）	2	4）課題作成（1）	2
6）IF 関数とネスト	2	5）3D モデルと Excel のグラフの活用	2
7）課題作成（2）	2	6）課題作成（2）	2
8）グラフの作成	2	7）アニメーション・ハイパーリンク	2
9）課題作成（3）	2	8）課題作成（3）	2
１０）データの検索と置換並べ替えフィルター課題作成	2	9）スライドの表現力	2
		１０）課題作成（4）	2
１１）データベース関数	2	１１）１２）１３）プレゼンテーション資料作成	6
１２）課題作成（4）	2		
１３）ピボットテーブル	2	１４）発表	2
１４）課題作成（5）１５）全体まとめ	4	１５）全体のまとめ	2

その他	関連科目
	コンピュータ演習Ⅰ

年　度	2024 年度
科目コード	K-K20

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
心理学	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	内野　千珠子

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

心理学を初めて学ぶ人を対象として、心理学の基礎理論を学び、自分自身の心理や日常の様々な現象を心理学の理論を通して捉えること、またそれらの知識について、社会を見る時に活かせるような視点を持つことを目標とします。幅広い心理学分野の全般を取り扱います。学生は、心理学の知見を通して、心理学の実証過程について正しく再現でき、説明できる。心理学の基礎知識を応用し、社会生活へ役立てることができる。

授　業　の　概　要

知覚、学習、パーソナリティ、発達、社会心理、臨床心理など心理学の様々な領域を広く学びます。心理学的な考えを通して、人間の行動や心理的な現象についての理解を深めていきます。

成　績　評　価　の　方　法

期末試験 50%　レポート 50%

期末試験	50%
レポート	50%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

ベーシック心理学　二宮克美　医歯薬出版株式会社

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．知覚－知覚の成立、知覚の体制化、知覚の様相	2	９．発達②－青年期以降	2
２．学習・記憶－学習のプロセス、記憶のメカニズム	2	１０．人間関係－対人認知、帰属理論、対人魅力	2
３．動機付け－動機付けの分類、欲求	2	１１．集団－集団の心理、リーダーシップ、社会的影響	2
４．感情－感情のメカニズム、フラストレーション、ストレス	2	１２．精神的健康－メンタルヘルス、心理臨床の対象、心理療法	2
５．パーソナリティーパーソナリティの記述、調べ方、異常と障害	2	１３．カウンセリングーカウンセリングの定義と成り立ち、理論と技法	2
６．知能－知能の構造、知能の測定	2	１４．心理学の応用分野	2
７．思考－思考とは、問題解決、創造性	2	１５．心理学の歴史と研究法	2
８．発達①－児童期まで	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K22

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
社会福祉総論	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	塩崎　雅基

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

現代社会を取り巻く様々な不安、困難等に社会福祉がどのように対処しているのか、軽減せねばならないのかを福祉研究、過去の実践を通して客観的および主体的に考える科目である。科目の到達 目標としては人間の生活の遵守、幸福追求を目的とした法、施策を理解するとともに、自身、家族にとどまらず、国民全体の生活を社会福祉の観点から、どのように形成すべきかという積極的視点を育成することを目標とする。

授　業　の　概　要

高齢者、障害者、児童、貧困等、現代社会に潜む生活を阻害する要因を明らかにするとともに、社会 福祉の概念・理念、歴史、政策、実践技、動向と課題等を具体的に学修する。

成　績　評　価　の　方　法

科目習得試験 70%、レポート 30%

期末試験　70%
レポート　30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

「シリーズ・基礎からの社会福祉① 社会福祉概論」基礎からの社会福祉編集委員会編 ミネルヴァ書房

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１ 社会福祉の学問的理解	2	１２ まとめ	2
２ 社会福祉総論の学び方	2	１３ 社会福祉の世界的動向	2
３ 生活と社会福祉	2	１４ 我が国の社会福祉の展望と課題	2
４ まとめ	2	１５ まとめ	2
５ 社会福祉のあゆみ	2		
６ 社会福祉の理念および思想の理解	2		
７ 社会福祉の仕組み（法・制度）の理解	2		
８ まとめ	2		
９ 社会福祉専門職の体系と役割	2		
１０ 社会福祉の実践（社会福祉援助技術の理解）	2		
１１ 社会福祉の機関（公的・民間）および社会資源の活用	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K26

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
デザイン	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	木野　正弥

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

デザインをするうえでの、センスを強化する。センスとは、微妙な違いを感じ取る力を指す。デザインにはセンスや感性が必要だと言われ、デザイン力を向上させるためには、修練が必要だと思われている。しかし、理論を理解してから修練を行った方が、上達スピードは速い。本講義ではデザイン力の出発点に立つことを目標とする。

授　業　の　概　要

デザインをするうえで磨くべきセンスを、色、形、文字に分けて、個別にそれぞれが持つ意味を分析し言語化する。デザインはすべての人が必ず上達できるスキルです。簡単な DM や冊子、イベントの告知ポスター、チラシ、Web サイトの制作を通して学びます。また、企画書、プレゼン資料、ビジネス文書作成も行います。

成　績　評　価　の　方　法

課題制作 80%　学習意欲 20%	課題制作　80% 学習意欲　20%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

デザイン入門教室【特別講義】確かな力を身に付けられる～学び、考え、作る授業

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．オリエンテーション	2	９．～ １５．実践演習	14
２．デザインを始める前に　デザインのルール	2		
３．レイアウトの基本ルール　版面・マージンの基本と設計	2		
４．写真と画像　画像優位性効果とモンタージュ理論・写真の基本レイアウト	2		
５．配色の基本　色の基礎知識・トーン	2		
６．文字と書体　文字と書体の基本	2		
７．文章のデザイン　書体選び・文字の大きさ	2		
８．インフォグラフィック	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K27

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
基礎数学	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	60	4	梅原　萌子

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

大学数学を学ぶための数学の基礎的な知識を身に付けることを目標とする。統計学や数値解析を行うための基礎的な数式の計算方法を学び、経営数学へ繋げるために必要な知識を身に付ける。

授　業　の　概　要

基本的な数学の知識を学び直すところから始める。数と式の基本的な内容（因数分解等）から、関数の理解、集合・場合の数を学び直し、基礎的な数学の知識を身に付ける。

成　績　評　価　の　方　法

授業の区切り毎に実施する小テスト及び学期末に行う期末試験を基に評価する。また、授業中の参加意欲に応じて成績評価を行う。

小テスト	30%
期末試験	50%
学習意欲	20%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

新版数学シリーズ　新版基礎数学　改訂版　岡本和夫監修　978-4-407-34887-3　実教出版

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
1.　数と式（整式）	4	11. 三角比	4
2.　数と式（整式の除法と分数式）	4	12. 三角関数	4
3.　数と式（数）	4	13. 三角関数の加法定理	2
4.　２次関数	4	14. 座標平面上の点と直線	4
5.　２次関数とグラフ	4	15. ２次曲線	2
6.　２次関数のグラフと２次方程式・２次不等式	4	16. 不等式と領域	2
		17. 集合と要素の個数	2
7.　高次方程式	2	18. 場合の数・順列・組み合わせ	4
8.　関数とグラフ	4	19. まとめと期末試験	2
9.　指数関数	2		
10. 対数関数	2		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-K28

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
データサイエンス・AI 入門	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	塩崎　雅基

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

AI やデータサイエンスの意味と価値が理解できる。データ分析の手法が理解できる。幅広く活用されていることが理解できる。

授　業　の　概　要

事象から発生するデータを蓄積し、活用する術を学ぶ。身近なデータに触れることでデータを活用したビジネスアイデアの捻出や知識の蓄積を行う。

成 績 評 価 の 方 法

各授業でレポートを課す。また、授業中の参加意欲に応じて成績評価を行う。	レポート　70% 学習意欲　30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

入門 情報処理　―データサイエンス、AI を学ぶための基礎―　寺沢 幹雄 著、福田 收 著

978-4-274-22798-1　オーム社

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
1.　オリエンテーション	2		
2.　情報社会とビジネス	2		
3.　コンピュータネットワーク	2		
4.　コンピュータシステム	2		
5.　コンピュータの動作原理	2		
6.　情報量	2		
7.　ソフトウェア	2		
8.　人工知能のアルゴリズム	2		
9.　メディアリテラシー	2		
10.　データ処理の実践	4		
11.　オープンデータの活用	8		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-K34

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
経営学	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	梅原　萌子

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

経営学は、経営に関する数多い専門科目の基礎を学ぶ科目です。私たちは、さまざまな企業からい ろいろな商品やサービスを購入しています。企業なくして社会は成り立たず、社会の発展はありえま せん。企業の行動を通じて、経営・ビジネスの知識を学び、考えることは、社会を見る目を広げる実 学そのものです。 講義では経営に関する基礎的な知識と理論を説明し、企業がどう行動しているか 経営の仕組みを総合的に学び、理解することを目標とします。

授　業　の　概　要

経営とは何か、その仕組みを「ヒト、モノ、カネ、情報」という経営資源と外部環境との関係から解きほ ぐし、企業に関するさまざまな項目を多面的に勉強していきます。 企業について、外部環境の中でどのように行動していくのか、企業の組織はどのようになっているの か、今後の企業はどのように発展していくのか、などを具体的に学んでいきます。

成　績　評　価　の　方　法

科目習得試験 70%、レポート 30%

期末試験	70%
レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

井出久光著 テキスト経営学[第３版] - 基礎から最新の理論まで -　ミネルヴァ書房

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第Ⅰ編 経営学と企業の特徴		第Ⅲ編 経営組織の特徴と理論	
第１章 経営学とその位置づけ	1	第１２章 組織とは何か	1
第２章 企業の特徴	1	第１３章 基本的な組織形態	1
第３章 企業の分類	1	第１４章 さまざまな組織形態	1
第４章 株式会社の特徴と仕組み	1	第１５章 経営戦略論	1
第Ⅱ編 経営理論の流れ		第１６章 人事管理論とリーダーシップ論	1
第５章 経営学の発生	1	第１７章 マーケティング論	1
第６章 テイラーと科学的管理法	1	第１８章 生産管理論	1
第７章 ヘンリー・フォードとフォーディズム	1	第１９章 財務管理論	1
第８章 ファヨールと管理過程論	1	第２０章 日本的経営論	1
第９章 メイヨーと人間関係論	1	第２１章 現代社会と企業	1
第１０章 行動科学と統合理論	1	第２２～第３０章 まとめ	9
第１１章 近代管理論からコンティンジェンシー理論へ	1		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K35

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
経済学入門	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	梅原　萌子

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

現実の経済現象の事例を用いながら、ミクロ経済学とマクロ経済学に関する基礎的な知識を身に付 けることを目標とします。現実の経済現象は様々な要因が絡み合う中で生じているため非常に複雑 ですが、経済学の基礎的な知識を身に付けることで、これらの現象とその問題点に対する理解が深 まります。

授　業　の　概　要

経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学という２つの主柱となる理論が存在します。大まかに分類す ると、前者は家計の消費行動や企業の生産行動と市場を通じたモノやサービスの取引などに主眼を 置いており、後者は経済を全体的に捉え、一国の経済活動の水準の決定とその変化などを分析対 象としています。本科目では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学びます。

成 績 評 価 の 方 法

科目修得試験 70%、レポート 30%

期末試験	70%
レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

はじめての経済学〈上〉

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第１章 経済学とは何か	6		
第２章 経済を大づかみに捉えると ーマクロ経済学の基本	8		
第３章 日本経済を変えた三つの分岐点 ーマクロの視点で考える	8		
第４章 市場の原理を理解する ーミクロ経済学の基本	8		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-K38

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
簿記	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	60	4	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

基本的な商業簿記を修得します。

授　業　の　概　要

簿記とは企業や商店などの日々の経済活動を記録し、それを集計して会計期間ごとに貸借対照表と損益計算書を作成する一連の手続きのことです。この会計期間をワンサイクルとする一連の手続きについて学びます。

成 績 評 価 の 方 法

期末テスト：70%　授業内課題：30%

期末試験　70%
課　　題　30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

はじめての人の簿記入門塾　浜田勝義　かんき出版

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．オリエンテーションと複式簿記の基本	2	１６．試算表　１７．決算	4
		１８．費用・収益、試算表	2
２．現金の仕訳と資産・負債・純資産・費用・収益	2	１９．減価償却	2
		２０．貸倒引当金繰入	2
３．預金と有価証券	2	２１．費用・収益の繰延	2
４．売掛金・受取手形・貸付金	2	２２．費用・収益の見越	2
５．固定資産　６．資産のまとめ	4	２３．仕入と売上原価	2
７．借入金　８．買掛金・支払手形	4	２４．決算整理仕訳のまとめ	2
９．未払金・預り金	2	２５．損益計算書の作り方	2
１０．資本金・資本準備金	2	２６．貸借対照表の作り方	2
１１．未処分利益	2	２７．精算表とは	2
１２．負債・純資産のまとめ	2	２８．精算表の作り方	2
１３．費用　１４．収益	4	２９．決算・財務諸表・精算表のまとめ	2
１５．簿記一巡	2	３０．確認テスト	2

その他	関連科目
	簿記演習Ⅰ

年　度	2024 年度
科目コード	K-K39

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
簿記演習Ⅰ	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	90	3	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

基本的な商業簿記の修得を目標とします。

授　業　の　概　要

簿記の基礎を学んだ学生へ問題演習を通して、簿記のスキルを身に付けます。日商簿記３級程度の技術を身に付けます。

成　績　評　価　の　方　法

授業内課題：50%　期末テスト：50%

課　　題	50%
期末試験	50%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

はじめての人の簿記入門塾

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．オリエンテーション	2	１６～２０．仕訳演習	15
２．簿記の基礎：簿記がわかると何ができる？	3	２１．決算	4
		２２．決算：試算表の作成	3
３～５．資産・負債・資本：資産勘定科目	9	２３．決算：損益計算書	3
		２４．決算：貸借対照表	3
６．貸借対照表	3	２５．貸借対照表と損益計算書	3
７．収益・費用：収益と費用の違い	3	２６．精算表	3
８～９．収益・費用：収益勘定科目	6	２７～２９．問題演習	10
１０．貸借対照表と損益計算書	3	３０．期末試験	2
１１．問題演習	3		
１２．仕訳：仕訳のルール	3		
１３．問題演習	3		
１４．仕訳：実例を用いた仕訳	3		
１５．仕訳：総勘定元帳	3		

その他	関連科目
	簿記

年　度	2024 年度
科目コード	K-K41

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
経営数学	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	60	4	梅原　萌子

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

経済学や経営学を学ぶ上で必須な数学を身に付けることを目指します。
経済、経営学で扱われる様々な問題を数理的に捉えられるようになるために微分積分の基礎を習得します。

授　業　の　概　要

導関数、関数の増減と極大極小、合成関数の導関数、高次導関数、テイラー展開、負定積分、定積分、面積と体積を学習します。

成 績 評 価 の 方 法

期末試験 70%　各授業時小テスト 30%

期末試験	70%
小テスト	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

数学概論　田代嘉宏　裳華房

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．極限値の基本的な定理・関数の連続性	4	１３．定積分における置換積分・部分積分	3
２．微分係数と導関数	4	１４．定積分の応用	3
３．関数の増減と極大・極小	4	１５．偏導関数	3
４．各種関数の導関数、合成関数の導関数	3	１６．偏導関数の応用	3
		１７．重積分	3
５．指数関数・対数関数の導関数	3	１８．微分方程式	3
６．三角関数の導関数	3	１９．まとめと試験	2
７．平均値の定理、高次導関数	3		
８．逆関数の導関数	3		
９．テイラーの定理とテイラー展開	4		
１０．不定積分の基礎	3		
１１．いろいろな関数の不定積分	3		
１２．定積分の基礎	3		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K43

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
法学概論	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	堀　保彦

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

人は意識していると否とにかかわらず、法律に制約を受けて生活しています。よりよく幸せに生活す るには、法律の基礎的な理解が必要だと考えます。授業では，民法、会社法、労働法、刑法、憲法な どの法律科目の入門編となるとともに、それらの法律の概要を理解することを目標とします。

授　業　の　概　要

人は生まれたときから、家族集団の中でその一員として生活しており、人の社会生活は、集団的な 生活です。そこにはおのずからルールが存在しており、法のみならず道徳、宗教、慣習など私たちが 社会生活をおくる上で守るべきルールすなわち社会規範によって保たれています。法は他の社会規 範と異なって、法に反した場合には、刑罰を科されたり、損害賠償を請求されたりして、国家の公権 力によって、法が予定する秩序の回復がはかられます。しかし、法は決して難しいものでも、こわいも のでもありません。法を知ることによってむしろ法は、自分を守ってくれるのです。 本科目では、まず法とは何かを理解した上で私たちの身近な民法、会社法、刑法などにふれて、日 本国憲法がめざす基本原理等を学びます。

成　績　評　価　の　方　法

科目習得試験 70%、レポート 30%	期末試験　70% レポート　30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

谷口貴都・松原哲編著者「基礎からわかる法学」成文堂［第 2 版］

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
1. 社会生活と法	2	8. 契約と法	2
2. 法と道徳ー法と道徳との関係	2	9. 消費生活と法	2
3. 法の存在形式と目的	2	10. 会社と法	2
4. 法の種類と体系	2	11. 職場と法	2
5. 法の適用と解釈	2	12. 不法行為と損害賠償	2
6. 家族と法ー婚姻、離婚、親子	2	13. 犯罪と法	2
7. 出生・死亡と法	2	14. 紛争と法的解釈	2
		15. 人権と統治	2

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K45

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
社会学	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	60	4	塩崎　雅基

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

人は皆、他者との様々なかかわりの中で生きており、こうした人間同士の諸関係から「社会」は成立しています。社会学とは、こうした視座に基づいて社会のあり方や変動、そしてそこにもたらされる諸問題を考察し、そこから「人間とは 何か」を考える学問です。この授業では、社会学の基本的なテーマや視点を学びながら、現代がかかえる社会的問題を検討し、人間や社会、文化についての理解力と問題発見力・解決力を養います。

授　業　の　概　要

授業では、個人と社会の関係性を考える際の基本的なテーマのひとつである「家族」について様々な角度から検討 し、そこから現代社会の特徴と諸問題、さらには未来の展望について考えていきたいと思います。

成　績　評　価　の　方　法

レポートと科目習得試験の結果を総合的に評価する（科目習得試験 70%、レポート課題 30%）。	期末試験	70%
	レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

岩間暁子・大和礼子・田間泰子（著）『問いからはじめる家族社会学 〔改訂版〕―多様化する家族の包摂に向けて』有 斐閣

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
1．「家族」を読み解くために	7		
2．「近代家族」の成立	7		
3．家族・貧困・福祉	7		
4．結婚	7		
5．就業と家族	8		
6．妊娠・出産・子育て	8		
7．親ー成人子関係のゆくえ	8		
8．個人・家族・親密性のゆくえ	8		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-K54

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
マーケティング	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	塩崎　雅基

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

マーケティング理論の基礎を理解し、企業のマーケティング行動がどのような意図でおこなわれているのかを見極める目を養うことを目標とします。

授　業　の　概　要

マーケティングとは「商品やサービスが売れる仕組みをつくること」です。ビジネスにおいてマーケティングは、リサーチ、広告宣伝、データ分析など様々な意味を指します。

成 績 評 価 の 方 法

期末試験：70%　レポート：30%

期末試験	70%
レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

マーケティング戦略　和田充夫 2022

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．序章：マーケティング戦略への招待	2	１３．ソーシャル・マーケティング	2
２．事業領域の選択	2	１４．関係性マーケティング	2
３．標的市場の選択	2	１５．デジタル・マーケティング　期末テスト	2
４．消費者行動分析	2		
５．競争分析	2		
６．流通分析	2		
７．製品対応	2		
８．価格対応	2		
９．コミュニケーション対応	2		
１０．流通チャネル対応	2		
１１．競争対応	2		
１２．サービス・マーケティング	2		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-K57

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
企画概論	演習	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

データ分析により企業の経営課題を見つけ、情報分析をエビデンスとした経営戦略の立案ができるようになる。

授　業　の　概　要

さまざまなデータベースより経営分析のためのデータを抽出し、必要なグラフ等にまとめ、分析を行う。グループワークや発表を積極的に取り入れる。

成 績 評 価 の 方 法

データマーケターの役割を理解し、マーケティング分析の基本が身についているか。さまざまなデータベースより適切にデータを抽出し、必要なグラフなどにまとめることができるか。課題の提出は必須。	期末試験	30%
	課　　題	30%
	学習意欲	40%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

データマーケター養成講座　初級編　一般財団法人ビッグデータマーケティング教育推進協会

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第 1 回　オリエンテーション	1	第 13～14 回　実習②③	2
第 2 回　ビッグデータとは	1	第 15 回　科目試験	1
第 3 回　データ活用	1	第 16 回　マーケティングの基礎①	1
第 4 回　EXCEL ハンズオン① グラフの作成	1	第 17～19 回　ID-POS データ①②③	3
		第 20 回　マーケティングの基礎②	1
第 5 回　実習①	1	第 21 回　ID-POS データ④	1
第 6 回　EXCEL ハンズオン② 散布図と相関	1	第 22 回　実習④	1
		第 23～24 回　外部データの利用①②	2
第 7 回　企画提案のための思考法	1	第 25 回　実習⑤	1
第 8 回　データ活用と各業界	1	第 26 回　マーケティングの基礎③	1
第 9～11 回　POS データ①②③	3	第 27～29 回　課題発見と提案①②③	3
第 12 回　フィールドワークの発表	1	第 30 回　科目試験	1

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K58

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
企画演習Ⅰ	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	1	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

現在の日本における消費形態、主に小売業における問題点を知る。企業・地域の課題解決のための基礎的な手法を学ぶ。

授　業　の　概　要

コロナを経て大きく変化した小売業等におけるビジネスモデルと経営戦略について理解する。デジタルツールを活用した企画を立案し、企業や地域社会の課題解決に必要な知識・技術を習得する。

成 績 評 価 の 方 法

グループワーク、プレゼンテーションなどへの意欲を重視する。課題の提出は必須。

学習意欲	70%
課　　題	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

経営計画の基本　いちばん最初に読む本　アニモ出版

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
1．日本の人口動態と消費の変化	2		
2．行動経済学の考え方	2		
3．行動経済学の活用事例	2		
4．演習①	4		
5．SNS の活用	2		
6．顧客の育て方	2		
7．演習②	6		
8．地域に向けたプロモーション	4		
9．演習③	6		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K66

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
ビジネス IT 技術	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	島田　幸紀

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

現代のビジネスシーンでは、激しく変化している OA 機器の全体像を把握し、業務の自動化に向けて、課題・問題を発見する。本講義では、経営・業務のワークフローにおける OA 機器の役割と働きについて理解を深めることを目標とします。

授　業　の　概　要

OA 機器とは、一般に職場環境で利用される PC,FAX,コピー機など業務を支援する機器の総称である。また、RPA に代表されるソフトウェア上における作業自動化を含む。デジタルデータを元に意志決定を行うデータドリブンを前提に、データ収集方法についても考察する。

成 績 評 価 の 方 法

授業内課題：30%　期末試験：70%

課　題	30%
期末試験	70%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

ビジネス情報学概論　定道宏　オーム社

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．オリエンテーション	2	１４．将来ビジネス環境の理想	2
２．Enterprise Architecture(EA)システム体系	2	１５．期末試験・まとめ	2
３．データウェアハウス	2		
４．ビジネスインテリジェンス	2		
５．全社業務資源管理	2		
６．サプライチェーン生産管理	2		
７．デマンドチェーン顧客管理	2		
８．業務アプリケーション統合	2		
９．ビジネスプロセス連携	2		
１０．ビジネスプロセス管理	2		
１１．電子商取引データ交換	2		
１２．情報漏えい防止	2		
１３．情報セキュリティ	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K70

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
情報社会と倫理	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	大場　玲子

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

情報化の進展は利便性をもたらす反面、新たなトラブルを誘発する面があり、情報倫理の重要性がつよく 認識されるにいたっている。情報倫理の基本を学習し、倫理という側面から情報社会についての認識を深 めることがこの科目のねらいである。学生が基本的な情報倫理を身につけ、社会の責任ある一員としてイ ンターネットを発展育成させる能力を持つことが到達目標である。

授　業　の　概　要

インターネットの世界でありがちな事例を検討しながら、情報倫理を学び、監視社会の諸問題など情報社 会について考察する。学生は、単にテキストに書いてあることを覚えるのでなく、サブテキストの指針・研 究課題にそって、それらを批判的に吟味・理解し、関連する問題を自主的に文献その他で（とくにインター ネットを実際に使用して）調べ、考えることが求められる。

成 績 評 価 の 方 法

レポートと科目習得試験の結果を総合的に評価する（科目習得試験 70%、レポート課題 30%）。	期末試験　70% レポート　30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

大橋真也ほか『最新情報モラル 高校版』 日経 BP 社

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
１．倫理と法（1）―情報倫理とはいかなる問題領域か？	2	１１．プレゼンテーションのマナー	2
２．倫理と法（2）―法と倫理を歴史的に考える	2	１２．ネットワーク社会との付き合い	2
３．インターネットの世界	2	１３．表現の自由とその限界	2
４．メールのマナー	2	１４．ＳＮＳと匿名性をめぐる問題―「炎上」	2
５．プライバシー権と通信の秘密	2	１５．情報社会を考える―新しい文化と監視社会	2
６．社内メールをめぐる諸事例を考える	2		
７．レポート作成のマナー	2		
８．剽窃（ひょうせつ）	2		
９．著作権制度の概要とその目的	2		
１０．著作権制度の諸問題	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-K75

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
情報科学論	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	60	4	塩崎　雅基

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

社会生活において、PC 等の情報機器を有効かつ安全に活用していく上で必要なコンピュータとネットワー クに関する基礎知識を身につけることを目標とします。

授　業　の　概　要

コンピュータ関連科目を学んでいく上で基礎となる内容です。
（1）情報とコンピュータの基礎　（2）コンピュータのハードウェア・ソフトウェア
（3）コンピュータネットワークの基礎と応用　（4）情報社会の課題

成 績 評 価 の 方 法

科目習得試験 70%、レポート課題 30%	期末試験　70% レポート　30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

情報科学概論（データサイエンス大系）　田中琢真

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第 1 回 コンピュータの歴史	4	第 14 回 ユビキタス・コンピュータ社会	4
第 2 回 ハードウェアの基礎	4	第 15 回 まとめ	4
第 3 回 ソフトウェアの基礎	4		
第 4 回 情報の表現	4		
第 5 回 まとめ	4		
第 6 回 プログラムの基礎	4		
第 7 回 データベース	4		
第 8 回 データ通信の基礎	4		
第 9 回 コンピュータネットワーク	4		
第 10 回 まとめ	4		
第１１ 回 インターネットの活用	4		
第 12 回 ネットワーク社会の情報セキュリティ	4		
第 13 回 情報保護の監査	4		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-S84

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
教育原理	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

教育の理念や学校教育の目的を教育の歴史・教育の思想という観点から明らかにして、教育研究 の基礎的・基本的な事項について理解する。

授　業　の　概　要

教育の目的・意義・方法・内容などについての基本的原則・理論的原理をもとにした教育・教育のしく みの概説を内容とします。加えて、現実の実際的な教育課題を検討の対象にします。教職に関する 科目の入門的・基礎的な科目です。

成 績 評 価 の 方 法

科目修得試験 70%、レポート 30%

期末試験	70%
レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

佐久間裕之編著『教育原理』 玉川大学出版部 2022 年

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
1 教育理念	2	9 教育の歴史（日本）4	2
2 教育の歴史（西洋）1	2	10 教育の思想（西洋）1	2
3 教育の歴史（西洋）2	2	11 教育の思想（西洋）2	2
4 教育の歴史（西洋）3	2	12 教育の思想（西洋）3	2
5 教育の歴史（西洋）4	2	13 教育の思想（西洋）4	2
6 教育の歴史（日本）1	2	14 教育の思想（日本）1	2
7 教育の歴史（日本）2	2	15 教育の思想（日本）2	2
8 教育の歴史（日本）3	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-S85

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
教育概論	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

現在のわが国の学校と子どもが置かれている状態を概観し、学校教育の意義や教師のあるべき姿 について考察し、教職の意義や具体的な教師の仕事を理解する。教職をめざす学生諸君に教職に 就くことの意味を各自の人生の中で考えることができるようなテーマを提供する。

授　業　の　概　要

教職の意義と教師の仕事、教師の資質・能力、学校の組織運営、学校の人間関係など幅広く教師に 求められる役割や専門性について考察する。 教育者としての使命感や子どもに対する責任について理解できるようなテーマについて考察する。

成 績 評 価 の 方 法

科目修得試験 70%、レポート 30%

期末試験　70%
レポート　30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

羽田積男・関川悦雄編『現代教職論』 弘文堂

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第１回 教職の意義	2	第９回 教員の資質と能力２	2
第２回 学校と教員の歴史１	2	第 10 回 教員の地位と身分１	2
第３回 学校と教員の歴史２	2	第 11 回 教員の地位と身分２	2
第４回 教員の養成 大学の教職課程とその学び方	2	第 12 回 教員研修１	2
		第 13 回 教員研修２	2
第５回 介護体験・教育実習	2	第 14 回 教職への進路１	2
第６回 教員の仕事と役割１	2	第 15 回 教職への進路２	2
第７回 教員の仕事と役割２	2		
第８回 教員の資質と能力１	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-S86

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
発達と教育の心理学	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

個人の様々な側面が発達をするにつれてどのような変化をするのか、また、それらの変化が人の生 涯の中でどのような意味を持つのかを学ぶことがねらいです。 それらを学ぶ事によって、様々な世代の人たちの行動や心理が理解できるようになることを目標とし ます。

授　業　の　概　要

発達心理学とは人間が受胎し、生まれてから死ぬまでの一生涯における様々な変化を捉えていく事 を学修します。 具体的には運動機能の発達、認知・知能等の発達、家族関係・社会性の発達、自己意識の発達を 学修します。

成 績 評 価 の 方 法

科目修得試験 70%、レポート 30%

期末試験	70%
レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

佐久間裕之編著『教育原理』 玉川大学出版部 2022 年

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第 1 回 人間と発達-1	2	第 9 回 幼児期の発達-身体面について	2
第 2 回 人間と発達-2	2	第 10 回 幼児期の発達-言語面について	2
第 3 回 人間と発達-3	2	第 11 回 児童期の発達-身体発達面について	2
第 4 回 発達の理論-1	2	第 12 回 児童期の発達-社会性の発達について	2
第 5 回 発達の理論-2	2	第 13 回 思春期・青年期の発達について	2
第 6 回 発達の理論-3	2	第 14 回 成人期・老年期とは	2
第 7 回 乳児期の発達の基礎	2	第 15 回発達障害について	2
第 8 回 アタッチメント(愛着)理論の概要	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-S87

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
教育制度論	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に 付けるとともに、そこに内在する課題を理解することをねらいとする。また、初等中等教育に照準化 し、我が国の教育政策、教育制度、学校の日常に迫り、公教育が真正面から対処できる教育環境、 条件整備の現状から今日的問題を深く掘り下げたい。さらに学校と地域との連携に関する理解及び 学校安全への対応に関する基礎知識も身に付けることをねらいとする。

授　業　の　概　要

教育制度についてその仕組みや考え方の本質を法的な観点を含めて考察し、現代の課題にどう対 処していくべきかを学ぶ。児童生徒に対して課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力及び 主体的に学習に取り組む態度を育む指導をする学校教員となることを目指す学習となるので、学生 自身が同様の力・態度を身に付けることとともに、自身の考察を深めることを目指し主体的な学修に 取り組むことが望まれる。

成 績 評 価 の 方 法

科目修得試験 70%、レポート 30%

期末試験	70%
レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

佐久間裕之編著『教育原理』 玉川大学出版部 2022 年

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第 1：教育法規の理論と体系	2	第 9：教育課程と学習指導要領	2
第 2：公教育とは何か	2	第 10：教科書制度	2
第 3：教職と教員養成・研修	2	第 11：学校・地域・保護者との連携及び学校安全	2
第 4：教員の任用と身分保障	2	第 12：特別支援教育制度	2
第 5：教育行政の原理と国及び地方公共団体における教育行財政	2	第 13：教育制度をめぐる諸課題 (1)	2
第 6：教育委員会の組織と職務	2	第 14：教育制度をめぐる諸課題 (2)	2
第 7：教員の人事評価制度	2	第 15：教育制度をめぐる諸課題 (3)	2
第 8：学校管理と学校経営及び学校評価	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-S88

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
教育課程論	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程についてその役割・機能・ 意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジ メントを行う事の意義を理解する。

授　業　の　概　要

授業教育の目的・理念や各学校の教育の目的・目標、教育課程の意義や課題などについ てその役割、機能や編成の方法を学ぶとともに、教育課程編成に関する基本的知識や 法的根拠、関係する学校内外の制度的枠組みなどを学びます。カリキュラム・マネージメ ントの意義についても理解します。

成 績 評 価 の 方 法

科目修得試験 70%、レポート 30%	期末試験	70%
	レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

吉田武男監修、根津朋実編著『教育課程』ミネルヴァ書房
中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示 文部科学省

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
第１回 教育課程とカリキュラム	2	第９回 高等学校の多様な教育課程	2
第２回 カリキュラムの類型論	2	第 10 回 学習指導要領の変遷①	2
第３回 教育課程と学習指導要領	2	第 11 回 学習指導要領の変遷②	2
第４回 教育課程行政の基礎知識	2	第 12 回 学習指導要領の変遷③	2
第５回 教科書と学習指導要領	2	第 13 回 学習指導要領の変遷④	2
第６回 総合的学習の時間の成果と課題	2	第 14 回 教育課程をめぐる今日の動向①	2
第７回 カリキュラム・マネジメントの理解	2	第 15 回 教育課程をめぐる今日の動向②	2
第８回 カリキュラム・マネジメントの理解	2		

その他	関連科目

年　度	2024 年度
科目コード	K-S89

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
メディアと教育	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

インターネットを中心とする情報社会の進展には目覚ましいものがあります。この科目では、メディアの歴史を振り返るとともに、これからの私たちの生活や学校にメディアが与える影響について理解 し、正しく行動できることを到達目標とします。

授　業　の　概　要

人類の進歩の歴史とメディアの発達は深く結びついており、その発達の歴史的な変遷を最初に概観 します。続いて、近年の情報ネットワークの発展により、社会や学校の様々な場面で情報メディアが 活用されるようになり、学びの形も変化しつつあることを学びます。特に、情報メディアやネットワーク を中心に、多様な教授メディアに関する基礎的な知識やその活用方法について学習します。 また、メディアが子どもたちの学びと生活及び社会にもたらした問題について理解を深めます。

成　績　評　価　の　方　法

科目修得試験 70%、レポート 30%

期末試験　70%
レポート　30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

『改訂 視聴覚メディアと教育』佐賀啓男編著・樹村房

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
(1) 「文字と印刷の歴史」について	2	(9) 子どもとコンピュータについて	2
(2) 視聴覚メディアの歴史的変遷等について	2	(10) デジタル教科書について	2
		(11) 著作権について	2
(3) 高度情報社会と人間について	2	(12)～(14)ネットワーク社会がもたらした諸問題とその対策について	
(4) デジタル社会における学びの形について	2		
		①情報モラル	2
(5) 博物館と視聴覚メディアについて	2	②ネットワーク社会の危険性	2
(6) データベースと情報検索について	2	③個人情報保護	2
(7) 電子書籍について	2	(15) まとめと補足	2
(8) 子どもとテレビについて 子どもの生活とテレビのかかわりを実	2		

その他	関連科目

静岡産業技術専門学校

年　度	2024 年度
科目コード	K-S100

シラバス（授 業 概 要）　時間数は４５分換算

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
レクリエーション理論	講義	デジタル経営学科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	河内　嘉美

授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標

レクリエーション(Recreation)活動の目的は、自らの人生を豊かにするところにあります。例えば、日々暮らす地域の人々との交流や自分と同じ趣味を持つ人との出会いは、仕事とはまた違った充実 感を私たちに与えてくれます。レクリエーション活動は日本語では「余暇活動」と訳されますが、これ は決して労働時間以外で実施されるものという意味ではなく、むしろ現代社会ではその後の労働意 欲を喚起するために実施される活動、といった理解が進んでいます。そこで、本講義では、基本的な レクリエーションに対する理解を進め、それをどうのようにしたら実生活の中に組み入れ役立てること が出来るかについて、具体的な事例を学びながら、理解することを到達目標としています。

授　業　の　概　要

第１章では「レクリエーション」に対する基本的理解を進める学修をします。 第２章では現代社会におけるレクリエーションの必要性について学修します。第３章では健康とレクリエーションの関係について学修します。 第４章では実際のレクリエーション活動時に必要なスキルについて学修します。 第５章ではレクリエーション活動の企画について学修します。第６章ではレクリエーションプログラム作成方法について学修します。

成　績　評　価　の　方　法

科目修得試験 70%、レポート 30%	期末試験	70%
	レポート	30%

使 用 テ キ ス ト ・ 教 材

『改訂 視聴覚メディアと教育』佐賀啓男編著・樹村房

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画

	時間数		時間数
(1)　レクリエーションとは何か	2	(9)　レクリエーション・ボランティア	2
(2)　レクリエーションとレジャーの違い	2	(10)　レクリエーション活動に必要なスキルⅠ	2
(3)　レクリエーション・フロー	2		
(4)　我が国のレクリエーション政策	2	(11)　レクリエーション活動に必要なスキ	2
(5)　現代社会におけるレクリエーションの価値	2	(12)　レクリエーション・イベントの企画	2
		(13)　レクリエーション・リーダーの作り方	2
(6)　レクリエーションとヘルスケア	2		
(7)　ライフスキルとレクリエーション	2	(14)　レクリエーション組織のマネジメント	2
(8)　レクリエーション活動の実際	2		
		(15)　まとめ	2

その他	関連科目